

# ジャイプール

特許審査第四部長 櫻井 孝

前にこのコラムで、デリーとアグラとジャイプールはインド観光における黄金のトライアングルだと書いた。デリーとアグラは既に取り上げたので、今回はジャイプールについて紹介したい（日本語表記として「ジャイプル」が正しいとする説もあるが、自分の記憶ではみんな「ジャイプール」と呼んでいたと思うので、ここではそのまま表記する）。

ジャイプールはラジャスタン州の州都であるが、古くからその地方の政治の中心都市として栄えてきたから、見どころに富んだ街である。もともとラジャスタン地方は、ヒンドゥー教徒の藩王（マハラジャ）達によって治められていた尚武の気質に富んだ土地である。ムガル王朝成立の頃にはイスラム軍と激しく戦ったし、またセポイの反乱の際にもイギリス軍と激しく戦った。だから、ラジャスタン地方にはまさに戦闘用の堅固な石造りの城郭が数多く残され

ている。ニューデリーからジャイプールまでは約400キロの道のりであるが、ジャイプール市内の手前10キロほどのところの岩山の上にあるアンベール城もそのような城郭のひとつだ。

この城は1600年に当時のマハラジャ、マン・シンによって建設されたもの。なだらかな坂道を登ったところに門がある。実はインドに発つ前に「地球の歩き方」のビデオ版を見たのだが、そこに「象のタクシー」が出てきた。インドと言えば象、というイメージだったから、あまりちゃんとビデオを見ていなかった自分は、インドに行けばどこでも象のタクシーに乗れるのかと思っていた。ところがニュー



【図1】アンベール城：1931年5月14日にジャイプール藩王で発行されたマハラジャ戴冠記念切手のうちの1枚（ギボンスJaipur#50）



【図2】アンベール城：1947年12月にジャイプール藩王国で発行されたマハラジャ在位25周年記念切手のうちの1枚。肖像は当時のマハラジャ、サワイ・マン・シンII世（ギボンスJaipur#72）



【図3】ハワー・マハル：1986年2月14日に発行されたインド切手博の記念切手（ギボンス#1182）。右上の緑色の四角い図柄は、1904年にジャイプール藩王国で発行された最初の切手（ギボンスJaipur#5）の模写

デリーで探してもどこにも見あたらないのである。この勘違いに気がついたのは、アンベール城を訪れた時だった。「象のタクシー」は、まさにアンベール城で観光用に行われているもので、麓の道路から城の入り口までのなだらかな坂をゆら～り、ゆら～りと登っていくのに使われているのだ。もちろん象のタクシーに乗らなくても歩いてアンベール城に登って行くことはできる。しかし、なかなか象に乗る機会はないから、観光に訪れたら是非一度は試されることをお勧めしたい。

アンベール城のほかにもう一つ有名な見どころを挙げるとすると、やはりハワー・マハル（風の宮殿）だろう。ハワー・マハルはジャイプール市内にある宮殿（シティ・パレス）の建造物の一部で、ジャイプール市内の目抜き通りに面して建っている。伝えられる話によれば、宮廷の女性は当時の習わしとして夫以外の男性に顔を見せてはいけないとされていた。しかし、なんとかか街の様子を見たい。お后にそうせがまれたマハラジャ、マド・シンは、18世紀中ごろにこのハワー・マハルを建てた。

ハワー・マハルはいわば屏風のような建造物である。たくさんのお窓（その数は953だそうだ）を備えた、ほとんど前面の壁だけのような奥行きに乏しい建物なのだ。全体は5層になっており、それぞれの層の裏側に通路のようなものがある。女官達はその通路から出窓越しに街の様子を眺めたそうである。風が吹き抜ける際に音がするので、それで「風の宮殿」と名付けられたらしい。

さて、インドの観光資源として重要なジャイプールであるが、とにかくジャイプールに関係するものがインドの郵便切手のデザインとして取り上げられたのは、1992年までにはたったの1度しかない。図3に示したものがそれで



【図4】ハワー・マハル：1988年12月1日に発行された国際切手博（1989年開催）の記念官制絵はがき7種のうちの1枚の図柄部分

あり、1986年にジャイプールでインド切手博が開催された際の記念切手にハワー・マハルが登場しただけである。しかもご覧いただいてわかるように、ハワー・マハルを知っている人にはそれと認識することはできるが、全然感じの伝わってこないでの悪さである。ピンク色になっているのは、ジャイプールが「ピンク・シティ」と呼ばれていることを意識してのものと思われるが、実際のハワー・マハルは赤砂岩のもっと渋い色合いであり、これもいただけない。このジャイプールに対する冷遇は何なんだと不思議になる。なお、図4は1988年に発行された記念官制絵はがきのデザインに登場したハワー・マハルである。これはラクダも配したりしていかにもインドらしさを醸し出しているし、ハワー・マハルの全容がわかってなかなかよいできだと思ふ。

自分の好きなアンベール城はインドの郵便切手には出てこない。仕方がないので、インド独立以前にジャイプール藩王国の発行した切手をここに紹介した。図1、図2ともに、「INDIA」の文字はなく、「JAIPUR」と書かれているのはそのためである。これらはジャイプール藩国内でのみ有効として使われた地方切手である。

切手は郵便物に貼られて世界中に飛んでいく。観光資源をテーマとして魅力的な切手を発行することは、けっしてその国にとって損にならないと思うのだが……。